

電子マネーの概要

- ・「情報通信技術を利用した決済サービス」
- ・銀行間決済を小売決済に持ち込んだもの
- ・小売店に小型の決済用端末を設置し、オンラインで決済
→既存のインフラを活用可能

普及の意義

消費者

- ・決済の手間の省略
- ・財布の小型化
- ・ネットの決済手段の選択肢
- ・「借金嫌い」体質への適合

小売側

- ・現金誤差の発生防止
- ・決済のスピード向上に伴う人件費削減

本論文の目指す姿

- ・古来から続く「貨幣⇔商品」という決済方法を電子化してより便利な未来へ
- ・「パスケースサイズの財布」

<前提条件>

- ・現金決済にあたる部分全てを電子化（未定）
- ・ポストペイ型は除外し、プリペイドのみ
- ・規格の統合については未定。

現状分析①

- ・2007年、SuicaとPasmoの相互乗り入れ、nanaco、Waconの開始等が相次ぐ「電子マネー元年」
- ・電子マネーの合計発行枚数が1億2654枚に到達。（人口約1億2700万人）
- ・「国民皆電子マネー」

現状分析②

前払い方式の主要電子マネーの普及状況
(2010年4月30日付け日本経済新聞より)

	発行枚数	月間利用件数	利用可能店舗数
Edy	5,650万枚	2,950万件	184,000店
Suica	2,918万枚	3,215万件	89,350店
PASMO	1,467万枚	1,350万件	73,000店
nanaco	1,000万枚	3,550万件	35,498店
WACON	1,390万枚	3,710万件	56,000店
ICOCA	523万枚	149万件	73,140店

(注) 2010年3月末現在。「Suica」の利用件数は、JR北海道の「Kitaka」、JR九州の「SUGOCA」、西日本鉄道の「nimoca」を含む。

発行枚数・利用可能店舗数ではEdyが勝るものの、利用件数では劣る。両者に相関はない。

参考資料：ポストペイとプリペイド等の違い

表1 わが国における電子的小口決済手段のサービス例

	電子マネー(含むサーバ型)		クレジットカード等			デビットカード	
	サーバ型	IC型	カード(非接触)		カード(接触)		
利用媒体 アクセス手段	ID、 パスワード	カード(非接触)	携帯電話	携帯電話		カード (接触)	
日本における サービス例	ちょコム WebMoney BitCash NETCASH	Edy Suica ICOCA nanaco WAON PASMO	Edy Suica nanaco WAON	QUICPay Visa Touch iD	QUICPay Visa Touch Smartplus PayPass iD PITAPA	各種クレ ジット カード	J-Debit Visa-Debit
決済タイミング	プリペイド方式		ポストペイ方式			即時	

[出典] 日本銀行決済機構局「最近の電子マネーの動向について」、2008年8月。

今後の予定…

1. 現状分析の深化、問題点の抽出。
2. 伊藤亜紀『電子マネー革命』講談社現代新書, 2011に掲載されている「電マネ口座」という、ネットバンキングの電子マネー版、つまりB to Cの決済だけでなく、C to Cでの決済においても電子マネーを利用すべきという主張の分析と自分の意見を加えていく。